

911.3
八

誹諧之秘記
一書

丁

誹諧二部書 全

浪卷書林

文榮堂
翰林堂
文觀堂



誹諧之秘記

誹諧傳と云事世より固く疑へ予親素
 一道理如く心氣力と画と神と説因縁法舞々
 阿妙あり語事かくして教とてあり皆を誹
 師と多ふ人又人あり師よりして師と云来
 誹諧み成就何日者只是合らと云まん
 ようい向者中云決ん出を成就本意此
 境本尊要外たし所兼み有る事と云云
 見あさす事と云先宗道の云掃くあり李
 若席子不真法師貞徳す川中河兼

誹諧秘記一書百韻四十四哥價去嫌夢相其外秘事也
 袖珍抄一書發句十八の切字其外手尔葉の傳來と妻のり
 本式古式一卷誹人席に望し心得るへ事話記

誹諧二部書全

浪卷書林

文榮堂
 翰林堂
 文觀堂



誹諧之秘記

誹諧傳と事世り肉く多し予素
 一道み如く心力を盡と神に託因縁法尋へ
 師と多家人又人あり師よりと師と也素
 誹諧み成就能何日有只是合らと云えん
 ようい向者中云決んんを成就能本意此
 境衣專要外たし所筆み有全堂と云
 見あすする先宗道の云掃くわ季
 若席不真法師貞徳すり多し所筆

ごうたはふかしくごうた道に州乃強如く
たは一たび了簡專要と書つる高情ゆ
とあぬふと不意すくやうとふか
稀小路履乃一巻はゆたをり堂上は面を
此てふをは乃外なり詠諧は日本に
あひたりは受法は知すし多宗道は
著ふ人後ししと子も誦言は利

とく白紙

詠諧之秘記

和式表

類ハ不入神祇神教ハ後句川雪
花同ときたる名不爾意也

その表十句ハ知家人多し裏に詮
五沙法なり

ウラハ古法二句也此二句ハ意は入

る一人首尾を以て表六句裏六句
なり自然古法は表裏乃教みか
る事
及乎天然なり

二つ也なり

天地人この三つ也 兼且る天意をよし 紹志
代理たり 兼且る人心をよし 此心なる上ハ
いふ所も自由なり 兼且る天意をよし 紹志
子に之 兼且る天意をよし 紹志

歌仙二十六ノ歌ハ

アナニエヤニエヤウニレヲトコニアヒヌ 十八
アナニエヤニエヤウニレヲトメニアヒヌ 十八

百韻といふ事

百句ト加ふる百韻百吟をいふ事

トナリト不思成て下板なり 知人なり 詠諧
こと事足なり 此歌詩と云刻 数々を言ふ
花に用所明のなり

表八句裏十句をり 裏十六句ト
数々定むべしなり 律詩終句 安歌人

仍テ表ノ類

起請轉合 四句メと五句メヨリ

起請轉合 四句メと五句メヨリ

裏ノ句 花に死 兼且る天意をよし 紹志
あつる也 再熟 兼且る天意をよし 紹志

よりの半 五部系入十類ハ半類と云ふ

禱 禱ハ誨也 カヘシハイハヒニ 別傳委 仍古今もつれ乃

字用てもくろしす 宗祇文庫書ノ委細

あり清補の不審と書ふ 是ハ不也

禱六義ハ連歌ノ類 六義

風 引ヘシト云ふ

賦 本意ノ補ノ故ニ賦をのそと云ふ

比 譬喩也

興 おの成範と調ひる

雅 言雅意雅アリ意雅ハ治定ナキ

頌 十七字ノてルをハハ常也

十 十八十九ノハ

八 十九ノハ

十 字ニ

字 ニ

二 字

字 ニ

字 ニ

字 ニ

一 冠乃賦と云事ありふくは癖と云付小章
一 冠をてき癖と云事異乃例を季

一 昭ハ心 何より付心附らるる人らに心くらあつて
箇後之半ハ未細よすに不及 詠諧成就なきは
書も益難し 漢是と云は 自花と海東なり

賀ノ仕ウに受

一 第三と云けさるる句と終し

櫻 花 梅 柳 松 竹 花を待客く玉すまき
まことの屋此介いらくし 花のあり 異別版
乃 詠 子 公 之 未 詠 成 就 味 け 子 細 不 及 内

詠義は後句にけりを終るもみせに代を
あきつる句句要く多くある事なり

一 詠強乃云ら一 順をては 句は事詠 括いふもすく
とすむし 多くくうは 量益は 不きう 骨氣お
一 在 詠 諧 也 無 事 ち 板 行 け 事 也 ち ち ち 詠 諧 也
拍子詠へもる物なり

此格あり

一 一字とねとハ ちん ちん せん ちん ちん ちん ちん
一 二字とねとハ ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

一「二字く」といハ

多し人ば玉藻さくといふ句
お上付花は米挿付ル歌ひなり

一四字不付ハ

松と石と骨茶向と風と波付る

一濁定の如ハ

のそえむてしる家なり

句切まそと不事有季吟詠語の句

○まおそをねハ毎松をう。紅葉して

句切まそと不事有季吟詠語の句

よりの也

一重祿又地又ハ

二度ある事又折るハ地又なり

一すそとふとハ

セリとる事とてハよそをさる

ふたりぬい格

一皮肉骨と

二つ小けをる祿骨 ちよんは瓜す

に一句くは皮肉骨細中物之骨ラセんと考はつなえ

と云ふ肉紙はらんとおふハ此道は火焼ひなり月飛と

は是乃詠語をそののほい未練人よ教てもつやぬ

そのよそへハ此境純然あり一真草初太は即

一下の句ハ二五三四五二四三といふ事いりあも是を紙を

なりぬ事なり

二五三四とは

おとに時節をなくさくさく

侍る君みよるあのはさき

五二四ことは

格翻をほしくきたるく

乃振人の行来もあは

二五五二別条あり三四のく四之をわしり

不存人れども子向をせしは

歌の篇序題曲流當時詠諧日くある事其へ

作者志す此の情を味ふ事書一たり未練は

云海でき事

一三十躰

十躰の内より出る事之發句はなほいふ

もあへし自れしとらき向ハ二十躰内

△幽玄躰 △行雲 △廻雪 △長高 △高山 △遠白 △澄海

△有么 △物哀 △不明 △理也 △極民 △至極 △麗神 △存世

△花麗 △松躰 △竹躰 △一花躰 △秀逸躰 △抜群 △写古

△面白 △一真 △景曲 △濃躰 △見格 △一節 △拉鬼 △強力

附句 ロットリ クラマ ヨソヘ
六作 クリツケ ウミタシ

大發句題在之時は手へくする紫ト力なり

發句ハ多クお終の極如く之れとて角主人公を

多きいふも向ふ成り小佐配一に能主人云々
きは給ふの河ねまゆや
これに家純は景感道と云書あり

とや成左判

詠諧之秘記



杉家藏書

